

| | | | |
|----------------|--|------|--|
| 件名 | H30 第4回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会 | | |
| 日時 | 2018年10月29日(月)19:00~21:00 | | |
| 場所 | 湯梨浜町中央公民館泊分館2階大会議室 | | |
| 出席者 (敬称略) | (委員9名)遠藤公章、石沼友、朝日田卓朗、尾川寛信、西田貴頼、田嶋昭彦、坂田克、 石井美佳代、渡辺由佳 (コーディネーター(Co)) 地域活性化伝道師 澤田廉路氏 (オブザーバー) ・ 県中部総合事務所地域振興局 山口リーダー ・ 地域おこし協力隊 辺隊員、鳥山隊員 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 仙賀副町長、遠藤室長、谷岡主事 | | |
| | | 計15名 | |
| 決定事項 (合意事項) | | | |
| 次回までの 調整事項 | | | |
| 配布資料 | 協議会会議レジュメ、泊地域小さな拠点検討協議会第4回会議宿題まとめ | | |

(会長)みなさんこんばんは。小さな拠点の方もそろそろまとめの段階に入りましたが、ある程度具体的にですね、どういうテーマ、どういう内容のものっていうのを詰めていくっていう事で、コーディネーターが遅れるという事で、こういう事が必要じゃないかという事を表の中に埋めていくような形で、みなさんと作って行きたいと思います。最初にテーマを絞っておいてくださいという事だったので、みなさんから出てる意見が資料の中にありますけど、ある程度絞っていくという事で、検討しておいてほしいという事だったので、その内容から入っていきたいと思います。今日はざっくりぼらんな感じで進めていけたらなと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。事務局の方からやり方を簡単をお願いします。

(事務局)今日は前回、強み、弱み、チャンス、ピンチをもう一度洗いだしていただきました。これを基にキャッチフレーズのテーマという事で、みなさんに宿題を出させていただいたものの中からもいいですし、それ以外でもいいので、今日は仮でも構いませんので、こういった拠点のイメージだというテーマを一つ決めていただきたいです。それを中央に記入します。それを実現するために、今後どうしていくかという事で、1年目、3年目、5年目という事で、どんな事が必要かなと皆さんに出していただく流れです。例えば、人でいうと、誰々さんの協力をお願いしたいとか、お金だったら運営資金どうしようかなとか、物だったらこういう物が必要だと、例えば生簀だったり、そういう物です。情報とかだったら、例えばこういった事をやりたい時の資格だとか、そういう事を出していただいて、1年目にはここまで、3年目までにここまで、5年目までにここまで、と大体ここに埋めていって、おおよその皆さんの中で統一した意見を、想いを、イメージを統一したいという意味で、これを作ろうという意味です。

(会長)それは、拠点の中でこういった物が必要じゃないかっていう事をずっと作り上げていくという事です。

(事務局)そうですね。これは私の認識ですが、拠点の中にこんなものがあつたら良いなというのを前回出していただいたんですが、委員さんの中には戸惑ってらっしゃる方もいて、一度、出した物ももう一度出てるという事が事実としてあるんですけど、イメージとしては、今回4月から、加わった方もいらっしゃるの、もう一度洗い出して、皆さんのイメージを統一させて、これまでこういった形に残していなかったものから、みなさんのイメージとか想いを一つに統一させてから、これから基本計画に向かっていこうかという意味で、今回もう一度、やらせていただいています。で、出した分全部をやらないといけない事はもちろんありません。たくさん出していただいた中から取捨選択して、自分たちで出来る範囲のものを絞った行きたいというような作業になります。

(会長)テーマって結局これって、その施設の名前になるってことなのかな、でも・・・

(事務局)イメージ的に、こんな拠点が良いなあとか楽しそうだなとか、みなさんのキャッチフレーズと
いうか。

(会長)ここは、今あるところで仮に進めていかないと決まらないので、やっぱり実際名前っていうと、

- 実際物が出来てきたり、そこで携わる人がないと、具体的には出来ないと思うので。
- (事務局)最終的にはオープンする時には、もう一度名前を決める必要があります。そこを作り上げていく中で、みなさんの意思統一という意味です。ここで仮ですけど、一つ決めていきたいと。
- (会長)どうでしょう、今6名の方から意見が出ておまして、見た直観みなさんどうですか。出した人は自分のが一番いいでしょうけど。まあ、イメージ的には。
- (委員)ちょっと役場の人に質問してもいいですか。さっき会長が言われた、小さな拠点今、売店と、コミュニティ機能だけになってしまって、売店ってなると誰が運営するか、多分運営主体が決まってくると思うので、その売店のターゲットだったりコンセプトだったり取扱商品は、その運営団体が決める事だと思うし、そのキャッチフレーズやコピーも、運営団体が決める事だと思うので、それを事務局に質問の形で投げかけて、いまではよう出さんという事で返答したんですけど、当初は役場と中央公民館と売店を一つにするという事で、小さな拠点という考え方で進んできて、役場は残します、中央公民館も残します、という事でとりあえず売店と、コミュニティ機能だけの施設になったんですけど、それでも小さな拠点という位置図けで、役場はこれから今後も運営・・・。
- (事務局)小さな拠点という拠点という言葉に引っかかってしまうんですけど、拠点っていうと建物が1個あるっていうイメージが先に出ちゃうんですけど、ではなくて、一つのエリアで歩いて行ける範囲のエリアの中で様々な機能を繋ぐっていうエリアを拠点という、小さな拠点というイメージで持っている。
- (委員)幸い泊の場合は、役場も中央公民館も近いと言えば近いので、このエリアを小さな拠点エリアの一つとして考えでいいのか。宇谷から筒地、小浜までの人が、集まれるもう一つの新しい物を作っ て行きましょうと。
- (事務局)もし仮に店舗が、今後詰めていく中で、ターゲットの範囲を例えばある地区を外そうよって仮になったとしても、役場やコミュニティがある限りはその地区の人も利用することになると思いますので、店舗部分でいうとターゲットを絞られてしまうかもしれないんですけど、公民館、役場機能という意味でいうとやはり、もう少し広がったイメージで捉えていただいたらいいのかなと。で、ちょっと言葉は違いますが、テーマパークのようなイメージで、こんな地域になったらいいとか、こんなエリアになったらいいなというイメージで、テーマを決めていただいと私は思っています。
- (委員)この協議会でね。ちょっと考えていて、一番わかりやすい例が身近にあって松崎のゆるりん館が今度オープンしますよね、それはまちづくり会社が運営されるんですけど、それとは別に松崎駅前活性化協議会というのがあって、それでも協議されとった。要はどういう施設であって欲しいという事をここで協議していったら、実際まちづくり会社がされる時には、削られたのもあるでしょうし、そういう考えで、こういう施設があったらいいなというのを我々は、今後2年間で協議すれば。
- (事務局)こうなったらいいなとか、こういった施設があったらいいなとか、そんなイメージで、住民の代表というか、住民でもありますし。
- (委員)そういうスタンスで発言すればよろしいですね。分かりました。
- (会長)エリアとしての拠点の中のシンボリックな施設という風に考えていったらいいですか。
- (事務局)そのエリアを象徴するような名前だとか、みんなが思っている理想としているような表現というような事を、まあ、仮ですので詰めていく段階で最終的には住民の方のご意見も聞かないといけないですが。
- (委員)僕もちょっと気になっていて、役場機能・公民館機能がなくなって、新しい物をした時に、その価値観ってどこにあるんですかね？結局一番最初は、そういうまとめるという話でいろんな、話し合っていて、どこからかその話が消えてこの話になって、ちょっと僕も出たり出なかったりで途中分からない事もあるけど、その新しい拠点を作る事に泊地域の人はどこまで価値観を見いだせるのかなあ、今僕が見いだせてないので、これに参加していない人はもっと分からない気がするです。やっぱりお金使って建てて、公民館と同じような、公民館も運営してて、役場も運営してて、で、同じような施設が出来て、どうなのって。確かに店舗ができればありがたい事かもしれないですけど、それを価値観を見つける会かもしれませんが、どこから公民館や役場から離れたですかね、その機能を失くすっていうのは。
- (事務局)機能を失くすっていうのは離れてないですね、要するにまとめられたのが、公民館は古くなったから将来取り壊しそれを建替える、ここは、体育館もあり、歴史資料館もあり、図書館もあり一つの教育ゾーンで、公民館がなくなったらまずいんじゃないか、という雰囲気の中で、ここは古くなったから建替えましょうというような一つの方針が出されたら、それともう一つ支所機能につい

ては、役場の支所という事で残さないといけないだろうと、支所のある周辺の機能も含めて、その辺で一つの拠点という事で検討をしていただき、その中でじゃあどうしようかという所で、支所が改修なり耐震なり出来たら、その価値も出来るじゃないかと、その中にコミュニティの機能を含めたらいいんじゃないかと、それが一つの案であったりとか、その周辺に買い物機能どうするんだという所では、例えばその支所の駐車場がないのではないかと、今検討しているのが、漁港の辺りですね、そういった所を一つの案としてどうだろうか、という所で提言をまとめられて、一つの拠点、そういったスタンスの中でもう一回具体的に検討していきましょうという話という風に思っているんですけど、失くすとかいう話ではない。

(委員)確認なんですけど、今話を自分も4月からで、キャッチフレーズを考えるのにいろいろどこまでの規模のものを考えているんだろうかっていうのがあって、元を考えていたところから広がりすぎたのかなという事もあったんですが、今話とかにあったように、例えば建物をキャッチフレーズ作って、建物をそのエリア内に、例えば売店なり作って、あとはそのエリア内で多機能、いろんな機能を持たせた、例えば空き家などを利用して何を作る、例えば役場のコミュニティの環境を作って何か入れる、そういうイメージで一つに、1ヶ所に港に集中して何かを、例えばおっきい道の駅みたいなものを作るんじゃないかと、一つ何か目になる物を作って、あとは業者さんがやって、収めるという考えで最初はそこにいくということですか。この1年目、3年目、5年目という事は、例えば港に1つ売店なり作っちゃうと終わるんですが、考え方が1年目、3年目、5年目の構想があるという事は、それぞれエリア内を活用して、1年目は何、3年目はこの地区を何とかしよう、5年目はじゃあまたどっかかっていう風な構想ですか？

(Co)それは、私が、仮に1年・3年・5年って決めた方が、物事がスムーズに進むという事で決めた事で、役場が決めたことではないです。で、例えば1つ施設を作ったとしても、1年目は目標売上を1億上げましょう、3年目は例えば5億上げましょうとか、あるいは何万人の人を呼びましょうとか、あるいはこういう事が実現できるようにしましょうとか、年度を区切って目標を組み入れた方が、より発展する、目標を決めない事には物事が進まないんですよ、おおよぼな人が沢山来ればいいみたいなそういうのじゃなくて、具体的にどういう風にしていくかという目標を決めない事には、物事は実現しないです。そう言った意味で1年目にはここまでやりましょう、テーマを最終的なテーマを10年後、20年後の事も頭に入れながら、テーマを決めていって、1年目には最低ここまでやりましょう、3年目はここまで来ましょう、5年目には運営できるような形にしましょう、いうぐらいなスケジュールを組まないと、物事は実現しない、という事で決めただけの話であって、それをみなさんと合意しながら、意見をみんなが出し合って、じゃあ、1年目はここまでやりましょうという話を決めて、それに向かって物事を進めないと、物事は実現しないという事なんです。

(会長)例えば今一番分かりやすい店舗ですけど、例えば店舗は1年目に作っちゃう。で、そこから次のステップという考え方？

(Co)それもあります。でも店舗を作ったは良いけど、ほんとにどういう店舗、今の作った店舗がどういう目的を持って作るかっていう大きなテーマがあって、それに基づいた店舗で、その店舗で何が実現できるかというような事があるわけですね、買物に困らないように店舗作りましょう。外から買物が出来るようにしましょう、とかいうそういう目標を決めていかなくてはいけない。そのためには、どういう人に来てもらおうとか、どういう物売れる様な施設にしましょうとか、そういう目標を決めないと、物事は進歩しないということです。仮にです、1年、3年、5年と入れたのは。

(会長)という事は、何がまず必要かっていう所を絞って。それに間に合う事をやっていくという事ですか？

(Co)一方的に決めるんじゃないかと、みんなでこうしましょうと、みなさんの共通理解の基に、合意をしながらやらないといけないと思うので、仮に、1年、3年、5年くらいが一番いいかなと思って、最終的には10年でもいいんですけど、あんまり先が長いとみんなに現実味がないので、良く見えるというか、判断できるとりあえず5年先くらいを見据えて、だから3年くらい見てを作ったらどうかという私からの提案です。

(会長)順番としては今日テーマを決めて、その次にという事ですか？

(Co)だから、テーマがこういうまちにしましょう、こういう施設にしましょうという、そのためにこういう施設が必要だという、テーマがないとダメです。そういう風に決めてその目標にむかった施設を作ったり、その施設の運営の仕方を決めるという方向にみんなが一つになって、その方向に向かって行こうという、その方向性を作らないといけないと思って、テーマを大事にして決めていきましょうという今日の大きな、今日のミッションですね。という事でそのテーマを決めるために地域

の強み・弱みとかこれはすでに、去年もやられたそうですが、ここまでは誰でもというかほとんど人がやるんですが、これからさらにもうワンステップ上がる事が結構難しく、それは強みとチャンスとうまい事合わせる、逆に弱みやピンチをいかに強みなりチャンスに変えていくかっていう事を考えながら、方向性を出さないといけない、その方向性というのはある意味ではテーマ、どういう施設にするか、泊の強みを活かすためには、どういう物がふさわしいかなというような事を議論して、そのテーマを決めていったらいいと思います。で、そのテーマを実現するためには、どういう人が必要で、どういう事をやったらいいかという事を考えながら、一つのテーマの実現に向けて、話し合いをしていただきたいというのが今日の目的です。で、宿題の関係のやつは、みなさんの方からすごい良いテーマやキャッチフレーズが出てきておりまして、ありがとうございます。それぞれ出した方から想いとかなんか説明してもらえますか。最初、「とまりとどまり屋」、「今どれとどまり市場」、お願いします。

(委員)「留まる」と「とまり」をかけてみました。それだけです。みなさんの見ていて、「泊のたまり場」が良いと思いました。

(Co)ありがとうございます。では、次の方。

(委員)私もほとんど一緒に、泊にとどまれみたいな。

(Co)ありがとうございます。とまるんば市場。これ結構言いやすくっていいかなと思って。

(委員)いろいろ考えて、基本どこまでなんだろうって考えた時に、やっぱり地名は活かしたいというのがありましたし、泊に関連する言葉を並べただけで、あと、このエリアも旧泊村の泊エリアなので、エリアもそこで絞ってるという事もありまして、みんなひらがなで書いてるんですけど、特に意味はなくて、インパクトを与えるために、周りから見た時にどういうインパクトを与えられるか、呼びやすい名前を考えた時に、こういう感じになったっていうだけで、はい。

(Co)語呂がいいですね、「とまりでとまってとまるんじゃ」「とまるんば市場」言いやすいし、語呂がいいかなと感じましたけどね。次お願いします。

(委員)最初この前の会議の中で、例えば定置網で揚がる魚だとか、地場の農産物だとか、そういう物をバーベキュー的にやる事によって、若者からいろんな人から呼ばれるような、そういう施設的なものはどうかという意見もあったので、それを総合して、遊びと泊を愛する気持ちをかけて、こういうテーマ、キャッチフレーズを考えてみたんですけど。いわゆる泊の中だけで何かをしようじゃなくて、泊の外から泊に人を呼んでこなければ、すぐに行き詰ってしまう。

(Co)はい、ありがとうございます。会長さん。

(会長)これは二つではなくて、とまりでなんでもそろそろ市場、物であったり、事であったりを含めて、やっぱりとまりって言葉は使っていくかといけないかという事で、とまりとマルシェとつなげて「トマリシェ」という風にしてみました。

(Co)なるほど。多数決で決めるのではなく、今日の大きなミッションは、テーマを決めてしまうという事があるんだけど、前回から皆さんの意見の中で、泊を大事にしたいという事と、地元の産物を売れる場所があったらいいな、あるいは、そういう物と交流する場所があったらいいな、というような事がテーマの中に入ってきて、キャッチフレーズになればいいな、と個人的には思ってたんですけど、結構みんなそれなりにそういう格好になってると思うんですけど、あとはみんなから言いやすいというか、言われやすくって、なんか記憶に残るような物がいいかなと私は思いますけど、だから、今書いてあるやつを直しても良いし、あるいは、別のものをガッチャンコしてもいいですし、作ってもいいんですけど、一つの方向性が出てきたような気がしますね。

(会長)文字、字句で時間をとるとものすごく時間がかかりそうな気がしますので。

(Co)で、とりあえず、これを決めるっていう訳じゃなくて、他に進めながらやっていきますかね。で、役場の方としては最低限何と何が必要ですか、こういう物を作ってほしいとか、役場の方からの依頼はない？

(事務局)特にはなかったんですけど、前回も言われたように、とまりっていう名前は残したいな、っていうのが皆さんのご意見だと思いますから。それがここの中に反映されている限りは問題ない気がします。

(Co)泊っていう言葉を大事にしたいという事です。あとは例えば買い物の話があったり、人が集まったりする場所とか交流したりする場所が欲しいという事です。

(事務局)基本的にはゾーンで、もともと一つで拠点として考えていたものを、ゾーンで考えていくっていう方向に変わったので、公共施設については町が主体になってやればいい、というこの協議会の中の考え方がありましたので、それはそれで進めていくとして、ここで一番ネックになっている

のは買い物難民の方、あるいは賑わいをどうするかという議論なのかなと思っています。あともう一つ何かあったかな？

(会長)賑わいとコミュニティ。

(事務局)コミュニティですね。

(Co)買い物難民の解消とコミュニティが、みんなが集う施設、これが欲しいという事ですね。

(事務局)コミュニティの関係につきましては、公民館コミュニティが主体になってたと思うので、もともとが、違いましたかね？大分前の議事録見てたら、そういう風に思えたんで。

(会長)公民館機能っていうのは、当初入れてましたからね。

(事務局)ですよ、それは、ここの公民館を建替えを含めて検討していくという方のコミュニティの方で、いいのかなと。結局ここの中で当初考えられた思いの中にコミュニティっていう考え方もあったんで、それは行政の中で公民館がしようがどこでしょうが、やはり皆さんが納得される部分の一つに入れていくべきかなと自分ではありますけど。

(Co)ここで言うコミュニティ施設のコミュニティとは意味合いはどういう意味合いですか？旧泊村のなんか集まったりできるそういうイメージでいいんですか？

(事務局)そういうイメージでいいんでしょうね。違いますかね、もし違ってたら。

(会長)そこ大事な所ですね、何の機能がいて事が一番大事ですからね。

(Co)そうそう、ここで何をやるの？みんなが集まれる場所、この内容によって、どういう施設になるか決まりますよ。公民館機能ってありましたが、公民館機能ってなんですか？例えば話し合いが出来るとか、そんなものでいいですよ。

(委員)子ども会の会議。

(Co)そんなんでいいです。子ども会の会合。

(会長)当初は公民館が無くなるということで、公民館で活動することをリストアップしてたんですけど、そういう事でいいんですか。そこはもう抜けちゃったっていう事で良いという事であれば、ただ単に。

(Co)特にこれだけは絶対やってもらわないと困る、そういう事ができないと困るっていう事があれば言って、そういう物があればそういう物が出来るようにしないといけないので。

(事務局)前回ここで、下で音楽か何かした時に会合とのマッチングで、なかなかその辺をきちんと出来てなかったっていう話、誰が話を拾われたんですかね。コーラスの人が下のロビーで、やるって。

(委員)火曜日がコーラス、水曜日が太鼓とかされる時に。

(事務局)会合と合わないと言われていたので。

(委員)それと漁村センターを閉鎖というか、使用しないことになる、泊3区から5区、6区が自前の集落の公民館を持っていらっやらないので、その代替施設としても考えてたと思うんですけど。

(Co)公民館の代替施設？集落の公民館機能の代替施設？

(委員)日々の、日々というか、例えば園区には園公民館があるじゃない。泊3区から6区までは自前の公民館を持ってない、それを漁村センターで、区の町会とか行事をやってたけど、漁村センターが使われなくなると、その集落の公民館自体が無くなっちゃうので、それを拠点施設で使ってもらおうと。

(委員)みんながそこを使ってたんですか。

(委員)漁村センターをね。

(事務局)ところがね、ちょっと前もう一回私も気になって調べてみたんですけど、昭和56年建物なので、耐震は問題ないんじゃないかっていう話がちらっと出てる。

(委員)使えるですか。

(会長)いや、56年の新年度の物は良いらしいんですけど、あれが、56年の3月までに出来ていてダメだってことだったんですけどね。

(Co)設計が、おそらく前の年くらいだったんでは。

(事務局)前の年ですね。じゃあ、アウトでいいんですね。

(会長)そこまで、ぎりぎりまで調べてもらったんです、事務局に。56年の新年度の分だったらって事だったんですけど。

(Co)だから、どのような事をしたいかっていう事を挙げないと、建物のイメージが、決まってこない。最低限今出た、みなさん言ってもらった方がいいですよ、子ども会の会合が出来る、子ども会の会合っていったら、話し合いの場、で、子ども会っていうと子どもが遊べる場、あるいは、子どもが好きそうなものがあるような施設じゃないといかんかなあという。

(委員)初期のころですけど、泊には塾もなかったか言って。

(Co)学習の場？

(委員)学習塾のレンタルスペースみたいな。そういう意味かと思ってたんですけど。

(Co)学習塾でまあいいんだ。

(会長)あと、この協議会もですね、海の駅協議会っていう協議会もあって、何かしら地域に、まちを活性化していくような協議会っていうような、多分組織が、協議会なのか法人になっていくのかわからないんですけど、そういうものがあるとした時に、それが活動できる拠点の場所というかスペースみたいなものが必要なんじゃないかなと。

(事務局)会長は両方兼ねてるという事があるんですけど、海の駅とこの拠点と両方、いずれ1本にする必要があるでしょうし、活動部隊が無くなるのは少し淋しいんで、そういう協議会的なものは拠点としてはあった方がいいんでしょうね。将来的にもね。

(Co)拠点は必要でそのための施設を作ろうとしてる、拠点があるかないとは大違い、拠点がある事によって、まちづくりが出来たりいろんな発展性が生まれるんで、拠点施設は必要だけど、その中にどういう物を入れ込むかっていう事です。だから、例えばその中に学習塾っていう話が出てきたけど、これまで子どもが集まって勉強できる場所、あるいは、大人が教えたりする事も出来る場所、そういう事もあるので、それから集落としての公民館機能も関係あるし、というような事がありますね、あとは音楽とかそれ以外の会合とか、趣味のみんなが集まる場、他の所で話しましたが、女性がいいが、退職した男性が行くところがないらしい、っていう事が他の所で話が出て、退職して70歳、こういう所へ行って昔の事を教えたり、あるいは、自分の今まで培ってきた経験を披露するような場所があってもいいかな、というような感じで、こういう事が出来る場所を設ける、この中にはそういう集まれる場所が、集まっているいろんなことが出来る場所、とまるん場と書いてあったが、何か出来る場所、というようなものが必要だと、いうことですね。それで、これがテーマ、さっき皆さんから披露してもらったのが、キャッチフレーズっぽいんだけど、もうちょっと、どういう中身かっていうテーマを決めてもらって、どういう泊にするんだっていうような内容のテーマが出ればいいかなと思うんですけどね。キャッチじゃなくて、もうちょっと具体的でなくてもいいんだけど、とまりっていう言葉を入れたいというのが一つ出てきました。

(事務局)先生、イメージが分かりにくいんですけど、キャッチフレーズっていったら大体分かるんですけど、それよりかもう一つ大きな物を考えるっていう事ですか。

(Co)例えば、賑わいのある泊なんだとか、幸せを感じられる場所になるんだとか、そういうのもいいんですけどね。

(事務局)それは、最終的に基本計画の中のキャッチフレーズみたいな形になるんですか、それが。

(Co)それで、施設のイメージに近い形。そういう事を実現するための施設だっていうようなキャッチだったり、テーマ、例えばこの施設が出来たら、賑わいの一つの拠点になるんだとか、あるいは買い物難民を解決する方法にもなるんだとか、というようなテーマだったら、そういう施設なのかな、例えばこの中で、とまりでとまってっていう言葉をみると、宿泊する場所があるのかなと思ったんですけど、これはとまりでとまっては、なにか宿泊施設をイメージしてます？あんまりイメージしてない？

(委員)基本的にとまりでありながら、泊まる所が一つもない、っていうのがあって、ただ、何にもないです、泊自体が。だから、ない物をこれから考えて拠点にはどういった物が、拠点には本当に住民が求めているものを考えていかないといけないと思いますけど。

(Co)宿泊施設は必要ですか？泊に泊まる場所がないっていう事じゃなくて、宿泊施設として、そういう施設は必要だと思いますか。あった方がいい？あった方がいいんだろうけど。

(委員)サーファーがどういった事を考えているか。あと星がきれいな所なので、近くで見てキャンプ場も石脇区とかに、そういう事を考えて。

(委員)サーファーは車中泊。

(事務局)泊まるんですか、ほんとに、サーファー。

(委員)大阪とかから来られて。

(委員)白兎海岸の所には施設だったか、ありますけど、あの辺はサーファー泊まっていますよね。

(委員)あそこも道の駅で車中泊が多いって。なるべくお金をかけずに、波乗りだけをするために、高速代やガソリン代もかかるし、食事もコンビニで手軽に済ませて波乗りを楽しむ方が多いんですけど、そういう関西の人が、一番鳥取や泊に来てくれる。

(会長)宿泊に関しては、海の駅協議会の方では、ちょっと民泊も含めて、そこを模索しているところも

- あるんです、今、検討しているところがね、なので、すみ分けが必要かなと思ったりもします。
(事務局)まあ、民宿もあるし。無いわけじゃないから。
(会長)一応、青少年の家もあって、実際には合宿とかきてますからね。
(Co)で、サーファーの人たちの事を考えると、今の車中泊なんか、例えば、シャワーがあった方がいいとか、少なくとも砂が落とせる場所があった方がいいでしょ。
(委員)温水はほしい。
(Co)でしょう、だから、そういう事が大事なんですよ、だから、温水が欲しいとかシャワー。欲しい物があったら言ってください。出来ますよ、今じゃないと出来ない事もありますよ。何があったらいい、食べる所があったらいい、寝るところまで要らないけど、何がほしいとか。今車中泊の話があって、車中泊で泊まる場所はいい、でも、起きたら顔洗ったりする場所が必要でしょう。
(ワザバー)キャンプみたいな事が出来る所がいい。車中泊しててもみんなコンロとか持ってきてるので、それでみんなでキャンプしたりとか、やっぱり道の駅では出来ないの。
(Co)火と水、要はバーベキューが出来たり、火があって、水があって、お湯が沸かせたらいいって事？
(委員)蒜山に新しく出来た、ヴィレッジで、塩釜の所がきれいになったんですよ、テントを統一して、もう固定テントというか、ブランドを統一しておしゃれに。中蒜山。
(事務局)コテージみたいな感じ。
(委員)いろいろあって、こっちは黄色いテントのエリアとか。
(Co)そういう物があれば良い？
(委員)ツリーハウスのような物とか、そしたら、親子もペットも。
(委員)だけどそれを維持管理していくのとか、手間だとかそういう物も考えていかないと。
(委員)でもそう言ってたら何にも進まない。
(Co)そういうのを逆に仕事にすればいい。人を探せばいい。例えば、退職して今は割と暇だっていう人に面倒見てもらうとか、そういう経験のある人とか、元学校の先生とか子どもの扱いに慣れているとか、そういうような人たち、いいヒントがでてきましたね、いろいろ言ってみると出てくる、あと星がきれいっていうのがあったけど、星がきれいに見えるためには何が必要ですか、例えば望遠鏡がいるとか、そこまでいいとか。
(委員)光が邪魔なんですね。
(Co)あー、光が邪魔、それもいいですね、そうか、光が邪魔。
(事務局)泊は、星を見る会とかやってるんですか？
(委員)ないと思います。
(事務局)東郷の方はしてるんじゃないかね。
(委員)公民館事業で。
(事務局)公民館事業でやってるよね。
(委員)年に1回、どこでもやってるかもしれません。
(委員)羽合やってる。
(事務局)羽合もね、たしか詳しい方がいて、ちゃんと望遠鏡もってる方がいるから。ウォーキングした時に、公民館事業で星を見てるって、東郷の公民館の時に、ナイトウォークの時に。だから望遠鏡もってる人が何人かいらっしやるんじゃないかな、逆に。
(委員)それこそ退職された方々にそういう趣味のある人に、講師呼んで、どうせ、天体望遠鏡を持っている方もいると思うので。凝ってられる方はそういう方がいらっしやいますからね、天体望遠鏡をセットしてもらって、今はここで何が見えるとか、講師してもらうのも。
(事務局)昔は泊もしたように思いますけどね。
(Co)そういう話は、施設を作った時にね、中の内容なんです、そういうコンテンツになって、そういう事が出来る場所となれば、そういうスペースがあったり、あるいは、見える方向に望遠鏡を据えられるようにつくりたいといけないとか、そういう事になってくるので、とっても良い話です、そういうのをドンドン言ってもらって、いろんな形が出てくるんですよ。
(事務局)案外公民館で出来るかも。
(会長)星を見るなら、一番潮風の丘がいいような気がしますけど。
(Co)あの辺何にもないから。
(委員)何にもないというか、光を遮断するためには、上の照明とかを一発でとんと切ってしまうと、そこで星を見る会っていうのは出来ると思うんですけど。下よりは。
(会長)漁火も見えないね。

(Co)上に光があったらいいの？下にあってもいいの？

(委員)そうです、下にはあってもいいけど、上に光があったらだめなんです。

(会長)風車壊した後にそういうスポット作ったらどうですか。

(事務局)いやー、あそこはきっとそういう物じゃなくて、全面芝にして、グラウンド・ゴルフ。

(会長)まあ、僕も星を見るのに、基本的に肉眼でこうゴロンとなって見えたら良いような気がしますけどね。

(Co)だから、ゴロンとなるなら、ゴロンとなってみたい、ゴロンとなる場所が、芝生で。

(会長)今の芝生の上が、良いような気がしますけどね。

(Co)そうなってくると芝生が必要になってくるでしょ。

(委員)何とかハウスがあったでしょ、焼肉やなんかが出来る、あそこに例えばシートなんかを保管して、見る時はシートを出して、広げて出来るかも。

(委員)焼肉の方はやってるんですよ。営業してるかどうかは分かんないですけど、一応予約。

(委員)恐竜食堂は？

(事務局)あそこは空いてる。

(委員)じゃあ、そこを倉庫代わりにして。

(事務局)大会で使うので、倉庫って訳にはなりませんよ。

(Co)蒜山のコテージって、このところでやろうとするのに非常に近いですか。その施設っていうのは泊にあっても、非常にふさわしい施設だと思う？

(委員)急に出来ていて、それっぽい統一感のおしゃれなソフトクリームとかおしゃれなお土産屋さんに、シックに統一してある。

(Co)それがあればうれしい？泊があれば。

(委員)でも、もしキャンプ場にあったらうれしいかもしれない。テント持ってこないといけないし。

(Co)テントをみんなで借りて使えばいいわけだ。

(委員)ずっと立ってたんです、そこには。

(委員)固定型か。

(事務局)泊に作る場所ありますか？

(委員)石脇じゃあいけません？

(事務局)あそこは、保安林になってて、保健保安林になってるんですよ。

(委員)潮風の丘とか？

(Co)いや、それは簡単には出来んけど、解除してもらえばいい、本当にやる気があるんだったら、解除してもらえるように努力しないとイケない。その場所が一番いいんだったら。

(事務局)石脇のところは年始明けにはキャンプ場には使っているからね。

(委員)あれは地区が持っているんですか？国？

(委員)テントを張るのは今管理者が居ないけど、出来るのは出来ると思います。

(委員)でも水は止めっちゃってあるし。

(事務局)それは可能なんです。誰かがやれば、保健保安林だからキャンプくらい出来ると思いますよ。

(委員)海水浴場も再開してくださいと商工会も要望してるんですけど、石脇区の方の理解、あとは石脇区の方が。

(事務局)飲み会の場は開放的じゃない。

(委員)石脇のたまり場は。

(Co)たまり場っていうのはいいですね、語呂が。たまり場ととまり場。

(委員)うちは石脇たまり場です。

(会長)石脇たまり場。

(事務局)あその串カツがたべれたらいいのになあ。お酒は美味しいのに。

(Co)串カツが美味しい？いや、冗談抜きで、例えば美味しい串カツがあったら、それ買いに行こうっていうような話になります、食べ物って結構インパクトがあるので、石脇、たまり場、串カツ。

(委員)まあ、食べ物だったら筒地の方々が、加工食品なんかを販売されてますので、そういうのもいろいろとタイアップすれば、いいんじゃないかなと思うし、農協の方も、源五兵衛すいかとまり漬けを販売してますので、そういうもの協力をいただけるし、いわゆる農協だったら、私も農業をやってますので、農産物もなんとかかんとか協力もしてもらえるのかな、協力し合っただけ、例えばそういうのを利用した、さっきのバーベキューじゃないですけど、タイアップすれば、ただ、冬が穴場になっちゃうけど、穴になっちゃうけど。

- (Co)冬場は途中、何か月か閉鎖するとか、良くある話。だけど、直感的に僕は思うんだけど、農協と漁業が近くにあって、どっちも新鮮なものが食べれるよっていう事になれば、それを売りにすればいいんで、それを売る場所があったらいいし、食べる場所があったらいいと思うんですけどね。
- (委員)すいません、ちょっといいですか、今考えているのは、エリア全体で必要なものを考えているのか、コミュニティの公民館機能の中に置くものを考えているのか、いまちょっと若干はずれているような。
- (Co)それがむちゃくちゃになってる？まず、エリアに必要なものがあって、それが拠点の中で解決するものなら、拠点の中に含めるけど、拠点の中に入り込めないようなキャンプみたいなものは、エリアで考えていかないといけないし。例えば買い物をするだけの場所とかなければ、拠点の中でもいいし。まず、地区全体で何が必要なのか、それを解決するためには、エリア全体で考えれば解決できるのか、あるいは建物の中で解決できるのか。
- (委員)例えば建物も想定されているのがどれくらいのものを作ろうとしているかによっても、中に入れる物って、決まってくるじゃないですか、スペース的な話で。
- (Co)逆に言うと予算規模はいくらですか。
- (事務局)それはないと思いますよ、予算規模の話は。きっとどういう物が欲しいかによって、そこからどのくらいの金額になるかはじくはずなんで。
- (Co)何が必要になるかによって違ってくるからね、当然。だから、泊の地区の人が一体何が欲しいのか、何が必要なのか。
- (事務局)ここで夢みたいな何億もというような話は、ちょっと難しいと思いますけど、ただ言われるように最低限こういう物が泊の中にないと、買い物難民も出てくる、コミュニティ機能が失われる、ことは、ここの中で議論していただければ、いいのかなあと、ただ、拠点としてはそうなのかもしれないんですけど、言われるように他で何がいうのは全体の中で、次に行政として、泊の地域として、新しい拠点の、例えば協議会の中に移すとか、という形でいいのかなと。
- (Co)それいい考えです。だから必要な物を言ってもらって、それは、ここで出来るから今回の建物には入れる必要ないとか、まず泊に何が必要なのか十分出してもらって。
- (委員)やはり高齢者が多いので、車とかもないって事になると、農協さんがやっとならされるような直売所みたいな野菜とかを売ってるようなスペースが、多分。
- (委員)直売所的なね。
- (委員)そうですね、そうすると農家やっとならされる方はそこに出すことも出来るし、そういった場所があったら。
- (会長)うちの実家も、店やっとならだけどね、高齢者はやっぱり、魚が欲しいというらしい。
- (委員)ああ、やっぱりね。魚・肉は必要だと思います。
- (事務局)肉屋はあるけどね。
- (委員)羽合の直売所の中には肉屋が入ってますね。
- (委員)肉屋さんにもそこに出店してもらえば・・・
- (会長)実際、今ある店もね、泊地区の精肉店の肉をおいてるんですけど、やっぱり坂の上に上がらないおばさんたちが買いに来る。ちょっとした豚の細切れとかだけけど、買いに来ます。
- (委員)そうものがあると、そこしか売ってないものが出てくると思うので、そうすると、直売所とか倉吉に行ったり、羽合の直売所に来たりするので、その辺で人の流れが生まれるんじゃないか。
- (委員)確かに買い物は、ほんと恩恵がなくなっちゃてるからね、泊は。僕たちの所も全然ないし。
- (Co)という事は、買物が出来る所が、必要だっていう事ですね。
- (委員)そういうスペースがあれば・・・
- (Co)一番、最低限買物が出来る。それは、今魚、肉が出ましたけど、野菜も必要でしょう。買物が出来る場所が、それが最低限必要な所ですね。
- (委員)野菜はね、羽合の直売所とタイアップすれば、直売所に出てきたものを少しだけこっちの方に回してくれば、いろんな野菜が入ると思う。結局は農協とタイアップっていう事になるか。
- (Co)今はないですね、そういう店舗は。
- (複数人)多少は・・・
- (Co)ないから必要。
- (委員)現在の店舗は2軒か。
- (委員)1軒は、野菜はないですね。
- (会長)今実際買い物難民もそうですけど、お店自体が仕入難民になっちゃってまして、仕入や問屋が中

部地区もどんどんなくなって、もう、ほんとにいつまで仕入れられるかっていう状態。仕入難民っていうのが今出てきて、取引してたところが、ここ3年くらいで4、5件辞めて、どっかに集まってきてるんですけど、それも、大手のスーパーが台頭してきたら、多分地元の間屋さん大変じゃないですかね。

(委員)そこで、ものすごい難民が生まれると考えるのかな。そういう風な形で。

(会長)もうちょっとそこの施設の方は、やっぱり、ある程度買い物の内容の充実を絞って行って、例えば魚にしても、捌ける所があって、捌いて出せるような、売り場にするとか。っていうような方向性を掘り下げていったらいいような気がする。

(Co)よくあるのが、そこで新鮮な魚を捌いてもらって、持って帰る事も出来るしその場で焼いて食べたり出来る場所。

(会長)結局買い物難民のお年寄りって、魚屋をやった時も、だいたい捌けなんですからね、出刃包丁なんか持ってないから。やっぱりある程度捌いて腹だしてっていう買い方なんです、ほとんど。

(事務局)ほんとに？

(会長)ほとんどお年寄りは。

(事務局)泊でも？

(会長)泊でも。

(事務局)出刃包丁持ってないか？

(会長)持ってない。

(委員)持ってない、危ないし、力がない。

(会長)魚を買って、家まで持って帰るっていうお年寄りはほとんどなかったです。

(委員)今他の店でそういう事やってるとこないですかね、捌いて、その場で捌いてそれを出すという所はありますか？

(会長)スーパーなんか頼めば、手間賃が。

(Co)逆にそれがないっていうのが特徴、強み。

(委員)70代の退職した人がやればいい。

(Co)そしたら、仕事にもなるし。収入に、小遣いになるし。

(事務局)だけど、泊地区の魚屋ではしてるよね、それ。

(会長)してましたよ。みんなほとんど買って帰る、おばちゃんの9割9分が捌いて。

(事務局)僕は逆だけだなあ。そのまま置いて欲しいけど。

(会長)捌いてもらって、時間がたつとっていう気持ちはするけど、おばちゃんたちはそうはいかないので。

(事務局)高齢者の家族になっちゃってるわけだな。

(委員)家族形態が変わっちゃって、独り者とか、老人夫婦だけで、まるまる1本要らないっていう。

(会長)そうそう、出来た惣菜がいいとかね。

(委員)大変かもしれない。

(委員)惣菜は確かに人気。ただし作るのが面倒くさいって。

(会長)一人分とかね。

(Co)そうすると料理がある程度出来たり、ある程度加工したものが。

(会長)そうですね、作れるような施設がいいんでしょうね。

(委員)完全なスーパーになっちゃうなあ。

(Co)だけど、既存のスーパーがやってない事が出来る場所っていうことで、それが特徴になるんじゃないですか。泊しかないっていうような、絶対泊の強みって、魚も野菜も両方あるっていう事だし、栽培漁業センターがあるっていう事は、ある意味では強みだし。その強みを生かさないとかなあと思う。

(委員)センターはあまり関係ない、放つ方だから。

(Co)放つ方か、あれは。

(会長)経由して今ある飲食店の所へ行って、だから捌いて食べれるっていう事は、二次的、三次的にはあるって、いいですけど。

(委員)そこの所はちゃんとしといてあげないと、邪魔しないように。

(事務局)そうなると、定置網との関係がでてくるかなあ。

(委員)魚を捌くだとかあだこうだとかは、今ある飲食店の所に任せるような格好。あそこにもそう言えばお客さんが。

- (事務局)それは、一緒にしない方がいい。
- (会長)それは飲食は、一緒にしない方がいい。魚屋も今方向転換を考えてて、あそこはそういう許可ととられるので、ああいう所を出しちゃって。
- (Co)要は、そういう事が出来る場所っていう事で、どういう場所が必要なのか、どういう物が必要かという事を中心に考えれば、何が重要なのか、どういう施設が必要なのかに、近づいて来るので。どうも、食べ物、買い物できて、食べたり、料理が出来たり。
- (事務局)定置網は、どうなんですか？
- (委員)火曜日にやっているじゃないですか、それが不評で、来年度からは曜日を考え直す事に。
- (会長)そうですね。週末とか、もう少し日数を増やしてもらおうとかが、良いような気がします。
- (委員)魚を販売するっていうのは定置があるので、かぶるところもあるんですけど、惣菜にしたりだとか、やれるようにすればいいのでは。
- (委員)どうせ、定置で揚がった魚も余るっていう事はないんでしょ？漁協の方に出荷しちゃうんですか。余った、言い方は悪いんですけどその市で売れずに余った魚は、漁協の方に出荷する？
- (委員)逆です、ほんとはまるまる出荷するんですけど、朝市のために一部出荷する。現状は毎週火曜日にやってるんですけど、どうしても平日普通の人は仕事でしょ。なかなか評判は良くないので来年は、曜日考えると思います。夏泊あたりはほぼほぼ毎日火曜日以外ずっとやってますので、毎日来年度からすぐ出来るかどうかは難しいですけど、どっちにしても魚を販売するっていう事は、朝市が人気があるっていう事なので。
- (会長)せめて、買ってその近くですぐ捌いて持って帰れるようにするとか、いくらか惣菜的にね。
- (事務局)実はそれをどこかの場所ですぐ捌いて販売するという手もあるしね。
- (会長)その販売の所をそういう施設が担っていく、その方が楽かもしれません。
- (委員)形態としてもその方が楽かもしれません。
- (会長)手間が省けてね。
- (事務局)一定量引き受けてね。
- (会長)そうですね、毎日。ほんとはその形が、いいと。
- (Co)今の話の中で、捌く、捌くってことはある程度料理が出来ないと、下処理っていうか、そういう事が出来る場所が望ましいっていう事ですね、売るだけじゃなくって。サーファーの人も食べれたり、買ってすぐ料理が出来たり。
- (委員)おそらく高齢者だけじゃないと思います。若い奥さんも魚捌くのが嫌だと、手が臭くなるとか、魚の目を見るのが怖いとか、よく聞きますから、そういう人たちも捌いてもらったら、ここで新鮮なものを買って帰った方がいいや、って事で、わざとでも買いに来る。
- (委員)あとは、野菜でも、思うのが、多分農業やってる人が困るのが、例えば果物が落ちたものは商品にならん、野菜でも形の悪いものは商品にならん、っていうのを訳ありの野菜のコーナーを作って、ちょっとでも買い取ってあげますよって、安い価格で、販売したら味は一緒なのだから、それで来られる方もあるので、なんか普通の商品じゃなく訳ありのコーナーとかをね。
- (委員)また割したような大根をね。
- (委員)買う人はいるからね。
- (委員)味は全然一緒だし。
- (委員)売る方も助かるし。安くても買ってくるれなら。安いから買おうっていう人も。
- (委員)うちなんかも、そういう訳あり野菜は処分しちゃうからね。
- (会長)捨ててしまう現状があるって事ですね。それはどっちにとってもあんまり良くないですね。
- (委員)コンテナで何十杯も捨てる。
- (Co)それは売る場所があったら、そういうコーナーを作ったり、いちいち訳あり商品半額以下とか言って、そういう事とかイベントをやれば。
- (委員)確かに来るのに良いと思いますけど。加工できる野菜もありますのでね、例えばスムージーなんか、きれいに洗ってスムージーにすれば、全然飲める。
- (Co)だから、捌く場所はやっぱり必要だ、魚だけじゃなく野菜も含めて、そういう。
- (委員)例えば野菜なんかだったら、安く売らんじゃなくて、なにか加工して、みなさんに分けるというかわかってもらう、良かったら、良い野菜買ってもらう。それだったら、そういう食べ方もあるんだとか、出てきたらお客さんも良いだろうし、地元のおじいさん、おばあさんが来てて、あそこに行けば、途中何か食べれるなあって、ひよこひよここと出てこられて、コミュニティでいろんな人と久しぶりにあったなと話も出来るんじゃないでしょうか。

- (Co)よくあるのが、一人暮らしに弁当を配って、お終いみたいになっている、実は、困るんだって、それ、みんなで一緒に食べたいんだ、高齢者は。だから配られたって困るんだって。だから一緒に食べる場所があるっていう事が大事なんで、だから一緒に食事出来る場、で、訳あり野菜を売る場、訳あり野菜を処理する場、こういう場所になれば良い。ちょっといい意見が出てきましたね。捌く場、訳あり野菜を仕分けできる場、簡単なお料理教室みたいな、さっきのこうすれば、スムーズになりますよとか、もうちょっと簡単に料理ができますよとかがあって、実際にそれを食べてもらう場所、食事出来る場所。
- (委員)皆さんが言われるように、そこに来た人にとどまって貰うんだったら、例えば海も近くにあるので、釣竿のレンタルをすとか、グラウンド・ゴルフのセットを貸し出して潮風の丘に行って貰うとか。
- (Co)釣りしようと思ったら夜釣りとか、朝釣りだとか、釣りの道具。漁協は釣りを PR しても問題ないですか、どうですか？
- (委員)漁師には邪魔でしょうね。
- (事務局)出入りも大変なものね、港の出入りだけでも。
- (委員)マナーが悪い人は、漁船が通るぞ、ってとこに入ってくる。
- (事務局)ケンカになるんですよ。
- (Co)それは客のマナーが悪い、マナーを守ってもらうように逆にお知らせしないといけない。今の話は要するにとまる方法の一つとして、釣りが出来るようなあるいは釣りの道具を貸すとか、という事ですよね。あと他にとまる、さっき出ているグラウンド・ゴルフ、グラウンド・ゴルフをした後に食べたり、飲んだりして泊まる所がない、まあ、湯梨浜町全体に泊まる所があるんで、だけど泊にはない。
- (事務局)まあ、宿泊には民宿があります。
- (Co)民宿がある？
- (事務局)1軒あります。それしかないんで、海の駅協議会でもなんか考えておられるみたいだし、それは、それの方で考えればいいので。
- (Co)それは海の駅の方で考えてもらうと。
- (事務局)それでいいでしょう。
- (Co)今の話で、釣りでとった魚を捌ける場所があるってことに関係してくるように思うけどな。自分で捌ける人は良いけど、捌けない人は。
- (事務局)釣りされる方によく聞くのが、全然釣れなかったけども、泊で買って帰りたいと、実は結構おられるんです。
- (Co)魚、やはりそういう場所が必要だという事ですね。という事はやはり、物を売ったり、食べたり、騒いだりする場所が必要だという事ですね。さっき泊まるっていう話があったけど、捌く、食べれる、という言葉を入れた方がいいかもしれませんね。ちなみにさっき蒜山の話をしてましたけど、そこも同じように捌けたり、食べれたりする？
- (委員)なんか出店みたいしてました。
- (委員)食堂が1軒なかったかなあ。
- (事務局)オートキャンプみたいな感じか？
- (オガバー)オートキャンプです、むちゃくちゃ広いやつ。
- (Co)それに近い形のものが、望ましいと思う？ちょっと泊バージョンに替えればいい話？
- (委員)泊まるどころの話がちょっと出たので、言ってみただけでどうなんでしょうね。
- (委員)この会議で一回視察に行かないと。
- (事務局)行くのは良いんですけど、利用するんだったらね、ただ今見たら、割と大きなかなり維持管理のかかる施設ですし、石脇の海で、先ほどの話だとキャンプ自体は出来るようにはなってますんでね、あとは逆にそれはそちらの方で。
- (会長)将来的な事でもいいですし。
- (Co)エリアとしてやっていくけども、拠点の建物の中にはちょっと入らないかもしれない。
- (事務局)ちょっと難しいでしょうね。
- (Co)ただ、最初あった例えば温水シャワーがあったりとか、あと焼いたりできる場所だとか。
- (事務局)元々石脇は温水シャワー作ってあったんじゃないか。
- (委員)作ってましたけども、使えません。錆びとか何とか、補修もしてない。
- (事務局)でも元の温泉水は。

- (委員)温泉じゃなくて、普通の。
(事務局)普通のボイラーかなんかで炊いてた？
(委員)駐車場の所にボイラー置いていて、100円で。
(事務局)やってみましたよね。ただ悪さする者がいたりね。
(委員)そうです、結構コインメックも壊されたり、いろいろ。
(事務局)結構悪さが多くて。
(委員)そうそう、わかる、わかる、かなりの事をされていた。
(委員)何回も壊れて、管とかも。
(Co)話をちょっと整理しないといけないんですけど、今日、テーマを決めたいっていう話なんだけど、どうも食べる、捌くっていう話が出てきたんで、食べる場所が必要だし、捌いたり売る所、最低でもそういう施設を作って、最終的にはどうであればいいですかね、ある程度収益が上がらないといけない？
(会長)そこが一番大事な所でしょうね。やっぱり続けていくのには。
(Co)それは形態は後になってくるかもしれませんが、旧泊村で何か協議会を立ち上げてその収益にする、とかなんかそういう案っていうのは特にある？ない？誰が運営するかって。
(会長)そこ大事なところですね。
(事務局)今の段階では、ここでじゃあやりましょうという訳には参らないと思います、それはどういう物をして、じゃあそれをした時に今言われたように、収支はどうなんだって聞いて、例えばみんながやるかというまず、やらないと思うんです。それは間違いのない話、でそこで、支援を使ってやるのか、あるいはボランティアでやるのかという議論をしていかないと、収支計算が出来てないのに、やりますかって言われて、はい、やりますっていう人はいません。
(Co)いませんね。中身を決めた、例えば、どっから仕入れてどうやって売るかという話になってくるので。
(事務局)どっから仕入れてという話はきっと地域の中でもう少し仲間を募って行って、農協関係、漁業関係、あるいはその他の加工関係の、それぞれの所から集まってもらわないと次は出来ないと思いますね。
(Co)もうちょっと話がすすんだら、こういった所から来てもらって話に加わってもらわないといけないと思う。
(事務局)そういうことですね。
(Co)ただ、今思うに、売り場が欲しい、捌いたり加工したりする場が欲しいっていう事なんで、これは新しい施設に取り込まないといけないんじゃないかなと思うんで、ある程度。
(事務局)ただ、食べ物と一緒に食べる場所をセットにすると、結構大きなボリュームの施設になってしまいますので、他に代替施設があればいいのになと、今ちょっと。
(Co)だから、逆に漁業の施設とか海の駅の方で出来るものがあつたら、そっちで代替えしてもらおうと、例えば農協の分は出来ないんで、それは入れるとかその辺の仕分けが必要だ。ただ、どうも売る場所は必要だし、捌いたり何か食事ができる場所が必要だなという感じはしますね。どうですか、みなさん。
(事務局)食事をする場所は、今ある飲食店じゃだめなのかなと、ふっと思ったけど。
(Co)食事の出来る所がありますか。
(事務局)だめなんかな？
(会長)どうでしょうね。
(事務局)週に、例えば、そういう日を設定して、一緒に共同でやれば、出来そうな気がする、無駄に大きな施設作らなくても。まあ、そこらへんは業務のバランスが。
(Co)それは海の駅の方で考えているんですか？
(会長)例えばイメージ的に、規模は分からないですけど、コンビニなんかイートインのスペースが出来て、買った物がすぐ食べれる。
(事務局)小っちゃい、2、3人とかだったらいいんでしょうけど、例えば10人以上になると難しいのかなと。
(会長)それを維持しようとする、常時10人はないでしょうし、だったら、既存の所とタイアップするっていうのでも、いいのか。
(事務局)今ある飲食店結構流行ってるみたいだからね、あそこ。普通の日には100人くらい入るっていうから。

(Co)えっ、どこですか？

(会長)港に出来た食堂。

(Co)普段もやってるんですか。その港の食堂って。

(事務局)ええ、やってます。

(委員)週一回休みで。

(会長)コミュニティスペース、集落のさっき言った泊3区から5区の集会が出来るレベルの広さがあればそこで買って、食べてもいいかなと。

(Co)兼用してもいい。

(委員)多目的スペースみたいな形で。

(Co)集会は多分夜になると思うから、店の営業は多分夜はしないと思うので、兼用したらいいと思うんで。

(事務局)配達してるのは今社協？給食サービスでしょ。配膳サービスの分？そういうの要は社協の方がオープンしといて、井戸端サロンしてるのが、そういう形と一緒にすれば、出来そうな気がする。あそこサロンもやってるじゃない。

(Co)その井戸端サロンってどういうサロンですか。

(委員)まあ、サロンって、地区の。

(Co)地域の人が集まって話をする？

(事務局)そうです、地域の小さい単位で、そこに集まっているいろんな井戸端会議してみたり、いろんな趣味とか園芸をしてみたり、というような形のサロンです。

(Co)それはスペースはどのくらいあります。

(委員)地区の公民館とかでやってるので。

(Co)例えば10畳くらいのスペースなのか。

(委員)集落規模によって。5人のところもあれば、20人も出てきるところもあると思うですけど。

(事務局)基本はそこじゃないかなと思いますけどね、そう言う所で、みなさんが一緒に食べれるような。

(会長)兼用的な所で、なんか良いような気がします。

(事務局)集まってここで食べましょうやって、ちょっとやっぱり人が来ないような気がする。

(Co)普段からみんなが集まってたら、そこで食事ができる。

(事務局)そこに社協の方が、例えば配達している分を月に1回、あるいは週に1回でも、最初は月に1回くらいかもしれないけど。

(Co)みんながそこに集まって食べる、家で一人で食べるより、みんながワイワイ言って食べた方がおいしい。

(事務局)そういう事をやれば少しずつでも人が集まってくるんじゃないですかね。

(Co)ついでにそこで惣菜買って帰ろうとかね。

(委員)泊地区については毎週にふれあい給食っていうのをやっていて、社協がきてご飯を食べる。そういうのを週に一回ね。

(事務局)それは輸送して？

(委員)いいえ、個々に来ます。それで、弁当の配達を、羽合・泊では、配食サービスを別にやっていて、高齢者向けにお弁当を届けるんですけどね。

(会長)そんなが新しい施設で出来たら、食事もできるし、ついでに買い物して帰れるし。

(Co)そういう場所だったら、望ましい場所ですね。

(事務局)別に大きな施設を作らなくても、今ある施設を利用すれば、その方が。

(Co)逆に今ある施設の中で、食事が出来たり、あるいはみんなが集まれる場所ってあるんですか。今ない言ってるけど、逆にある場所もあるでしょ。

(委員)スペース的にはそんなにいっぱい来られないので、その時に、例えば販売に来るんですよ、野菜持って、そこに来て、ちょうど来た人のために、カップラーメンとかそこで売って、その場で買って帰ってもらう事もやってますので、売りに来るところはあるんです。それにめがけて。

(Co)なるほど。まあ、それを邪魔したらいけないけど、そこでいっぱいいろんな人が買うっていう事は、必要とされてるという事だ。だから、必要とされることを提供できるような施設でないといけないという事ですね。

(事務局)配食サービスは、動けない方や外に出られない方がね、居るところが必要なんだろうけど、出れる方はやっぱり出た方が。

(Co)出れる人っていうのはどこに出掛けてるんですかね。買い物に行くとか、行く場所がある？

- (事務局)買い物は社協がやっていますからね、買い物ツアーじゃないですけど。
- (委員)それは、車がないとか高齢、やっぱり高齢の方中心で、それで買い物するところがないので今、乗り合いバスっていうのを。
- (Co)ああ、バスに乗って買い物にいきましょうっていう感じ。
- (委員)そうです、それで羽合まで買い物に行くんです。社協側が車だして、乗せて買い物行って。
- (Co)うーん、なるほど。まあ、そこまでせんでも、施設が出来れば。
- (委員)あればね。
- (Co)あれば、みんなが買いに来る。ついでにみんなが集まって食事出来る。やっぱり食事ができる場所が必要だ。で、ついでに買い物して帰れる。年寄りだけじゃなくてサーファーも使えるようになれば、両方が使える。そういう施設を作ればいいわけだ。
- (事務局)どのくらいの規模がいるかね、一回出していただければ。
- (Co)だから、今聞いたようなものをイメージして、例えば食べる場所とか、捌く場所とか、あるいはシャワーとか、みんなが集まる場所とかって考えて、大体どの位の面積が必要かなって、ちょっと画を描いてくれという。
- (事務局)そうです、そうしたらみんなが盛り上がりって。
- (Co)だから、それは要するにたたき台なんですよ、決定した物じゃなくて、みんなの意見を、たたき台がないと、みんなが意見を言えないという事ですね。
- (事務局)そうですね。
- (Co)じゃあちょっと今回は私の宿題で、今の話を頭に入れながら、例えばこんな画はどうだろうと描いてみましょうかね。たたき台で、議論をするためのたたき台という事で。
- (委員)場所は泊ですよ。
- (Co)当然、当然。
- (会長)港の周辺。
- (委員)だったら、泊で海に入る人はいいかもしれないけど、石脇からわざわざここにシャワーに来るなんてまずない。
- (Co)例えばどういう物が必要なのか、そういう感じを言ってもらったら。
- (会長)そうやって言っていけば、例えば今回シャワーまではっていう話が出たりとか。
- (委員)シャワーはいいですよ。
- (委員)漁村センターはいつ解体とか決まっているんですか。
- (事務局)まだないんですが、言われたように耐震がアウトだった場合に潰す必要があるっていう話だけです、いつかっていう決定はまだ全然してないです。役場はこの中で残すって風になってますので、耐震をしながら。
- (Co)テーマらしきものがちょっと出てきてないんだけど、必要なものが出てきました、だから食べる場、みんなが集まる場、それから販売、出来たら捌いたり出来ればっていう事ですよ。それで、テーマを、テーマっぽいものを決めたいんだけど、今言ったような事が出来る施設って、どういう感じになりますかね。とまりが無いかもしれないけど。
- (会長)それってどうしても要りますか、すごい時間がかかりそうな気がするんですけど。
- (Co)いやいや、ある程度決めたいなって思って。なんでもいいから言ってもらったら、ある程度は方向性を決めたいなって思って。今決まったのは、何回も言うけど、買う場所、食べる所っていう事ですよ。で、買って。
- (事務局)とまりのね、先生、タイトルみたいなものですよ。こういう基本計画タイトルみたいなものを作りたいという事。
- (Co)作りたい。そういう基本計画のタイトルみたいなものを作って、ストレートじゃないけど、そういうのに近い物が出来れば、いいかなと思って。
- (事務局)で、そのタイトルに近いのが、とまりでとまるとまるんじゃ、みたいなのだったらいろんなことが描けるっていうことですね。
- (Co)そうそう。とまるんばっていうのが言いやすくていい感じかなと思って、で、みなさんのやつも何となく入ってるかなと思って。
- (事務局)いろんなことがそこに入ってくるから、このキャッチフレーズでいろんな物が作れるっていう意味、イメージですよ、今言われているのは。
- (Co)例えばの話でこれで決まりじゃないけど、なんとなくそういった方向で決めていったらいいかなと。とまりがちょっとないかもしれないけど。

(委員)泊に拘るんだったら、「とまりんば」で。

(Co)とまりんば、とまるんば、それにまたみんなの言葉を込めて、使えばいいし、なんかサブタイトル付けてもいいし、とまるんば、「とまりんば」、食べる、捌く、それからなんだっけな。

(会長)買う。

(Co)買う、買うだ、こういう機能を入れる、とりあえず、とまる、食べる、捌く、買う、とりあえずこれでいいか、それと話が出る、これに従って、一応の方向性が、また直せばいいけど、とりあえず仮に入れといて、じゃあ、そういう、とまる、食べる、捌く、買う、話が出る場っていうのをとまりんばならとまりんばにして、そういう場所を作る、それが拠点としての位置づけみたいなのにとすると、今日時間があるかないか分からないですけど、ちょっと無理かもしれないですけど、そうすると、次、今日やってしまうっていう事は、ちょっと出来ないな。じゃあ、そういう場所をあれするんだったら、例えばとまる、食べる、捌く、だったら、どんな人が必要なのかっていう事を頭に入れながら、人とか物とか、それからどうやってPRするかって事を、いまちょっとここに書いてますけど、大事なのはこれを実現するためには、絶対必要なのは人、それから物、あとPRする情報を波及しないと実現しないので、最終的にはお金、予算、4つの方向からこれをどうやって実現するかということ、次回はこれ、で、たたき台だけは次回までに時間があれば画も描けるかもしれないけど、ちょっと画はきついかもしれないけど、頑張る。

(会長)宿題にしたらいんじゃないですかね。

(Co)宿題で、みんなとまりんば、仮ですけど、でも最低限泊まったり、食べたり、捌いたり、あるいは買ったり、話が出来たり、というようなことが出来る場所を作って行きましょうというそういうテーマですね、みんなの話を総合するとどうも、食べる場所も必要だし、捌いたりそれを惣菜みたいにして売ったり、それを買ったり、そういう場所がどうも必要だと、そういう場出来る事に方向性を決めて、そういう形でしたいなと思うんで。そのためにはどういう人がいるのか、あるいはどういう物があるのか、例えば売る物、あるいは魚ではどんな物とか、加工したらどんな物とか、そんなことをちょっと考えてもらって、より実現性を高い方向に、1年目に何が出来る、3年目に何が出来る、5年目に何が出来て、だいたいそういう場として定着するなら、っていうイメージを作って行くようにしましょうか。で、それは皆さんが考えてください、私は、自分への宿題として、これが大体出来るイメージという画を描きます、画を描くのが私の宿題、で皆さんはとまりんばにどういう人が必要なのか、みたいなことを考えてください、どういう風にPRして、人に来てもらうかっていう事、を考えてください。で役場の方は、予算規模をどのくらい想定したいのかという事をイメージしてもらって、来年の予算要求ぎりぎりかもしれませんけど。

(事務局)まあ、それは、どうすればいいのかという議論が必要だと思います。早ければ早い方がいいんじゃないでしょうか。

(Co)でもほんとは来年の予算でも、もう始まるんじゃないですか？来月くらいは。議会が。

(事務局)結局来年の予算の時にね、どこまでの物が出来るのか、これ一つにしても実施設計してもらわないと分からない。

(Co)実際の細かいお金は実施設計して見積もらないと出来ないっていう話です。

(事務局)画だけじゃちょっと難しいんで。

(Co)難しい。

(事務局)とりあえず、面積とどういう建物で、どういう中身の構造になってるかぐらいが分かれば。

(Co)それで予算ははじきません。面積とどういう内容だっていう事は予算は出来る？

(事務局)ですよ、そこから来年度実施設計までとりあえずかかってみて、実施設計にかかった段階で予算を計上するのかなっていう気はありますけどね、早ければ早い方が、でももう少し時間を下さい。

(Co)ただ大体の方向として、例えば1千万以下なのか、あるいは億までいなくても。

(事務局)1千万じゃあ出来ないでしょう、これだけのものは。

(Co)だから、どの程度までを上限として考えているのか。

(事務局)これの建物からいくと2~3千万かかるんじゃないですか。

(Co)2~3千万はかかりますね。普通の住宅だっけかかるんで。

(事務局)そうですね、2千万くらいかかるんで、あとは水回りとかなんかがどのくらいかかるのかっていう。

(Co)そうですね。あと、食べたり、買ったり、冷蔵庫も高くつくし。

(事務局)これ、トイレはいるのかなあ、って思ったりするんですけど。

- (Co)トイレはいりますね。
(委員)必須でしょう。
(Co)道の駅の3つの条件でトイレは必須です。トイレとあと地元の特産物。あと情報とか、道路情報なんかをPR出来る。この3つがないと道の駅にならないんで。それは最低限の道の駅でなくてもいいんだけど、必要。
(事務局)ここは言われるように、普通の方以外に釣り客なり、いろんな人がどのくらい集客があるのか見極めて、インフォメーション機能もどっかに必要になってくる可能性もありますから、まあ言ってみれば、波情報なんかを挙げたら、喜ぶ人もいるかもしれませんね。
(Co)釣り情報？
(事務局)釣り情報ね、ひょっとしてね。
(Co)それいいかもしれない、釣り情報。
(事務局)まあ、インフォメーションの中にどう情報を入れるかっていう話なんでしょうから。まあ、ちょっと金額については、言われたようにある一定の面積に応じて、建坪いくらで出来る程度の話から進めていきたいと思います。
(Co)そういう格好で行きましょう。
(事務局)最終的に運営される方をどうするかをこちらでも考えてみたいと思いますし。
(委員)来週手本となる施設が松崎地区に出来るので、落ち着いてから、視察にでも。ちょうど売店もありますし、コミュニティスペースも、食堂もありますから。
(Co)なんていう場所だ？来週の何日？
(事務局)11月5日、月曜日。
(事務局)ゆるりん館っていう名前ですから。
(Co)ゆるりん館、11月5日オープン。
(委員)まあ、落ち着いてから。
(事務局)そこを見られたらいいと思います。
(委員)規模的な面積的な。
(Co)イメージがつかめる？
(事務局)まちづくり会社に町が指定してますので。どっちかっていうところとは考え方が違うんです、指定管理を置いて、そこに必要なお金を町が出しているという形ですから。
(Co)ゆるりん館っていうのは、施設の名前で？運営管理者は？
(事務局)運営母体が指定管理でまちづくり会社に管理していただいています。
(Co)分かりました、では、次の日程を決めましょうかね。
(会長)それと以前からちらっと話してますけど、海の駅の協議会の方も、こっちがどんな事やってるか知りたいなっていうのがあって。
(Co)合同でやったら一回。
(会長)たたき台が出来て、その次ぐらいにちょっと合同でやってみますか。
(事務局)ちょっと出来ないのでは。
(Co)出来ない、逆に海の方の情報を下さい。事前に一緒にする前に、事前に一回話をしましょう。
(事務局)今年中に1回、こちらの方で決められたことで、向こうと話しといて、来年の年明けくらいがいいんじゃないの。
(会長)じゃあ、1か月後ぐらいなので、11月の末くらいに、しましょうか。28、29の水、木辺りはどうですか。じゃあ、29日をお願いします。では、ありがとうございました。
(委員)ゆるりん館の写真を見たいですね。

次回：11月29日(月)19:00～

※事前に「とまりん場」実現、継続に必要な項目「金」、「人」、「もの」、「情報・交流」について提出